



故事成語 使い方を理解 北上市 飯豊中

北上市の飯豊中（八重樫満校長、生徒279人）の1年生は、国語の調べ学習でプラス日報を活用した。テーマは「故事成語は今に生きる言葉なのか」。「漁夫の利」「温故知新」などの言葉がど

の程度新聞記事で使われているかを調べ、故事成語が現代の日本に根付いているか考察した。テーマについて検証し、報告書にまとめる全6時間の単元の中で取り組んだ。



生徒はグループごとに、あらかじめ故事成語の一つ決め、その言葉が今の日本で生活になじんだ言葉として使われているか否かについて仮説を立てた。その後、プラス日報を用いて故事成語が含まれている記事の件数や、どのような文脈で使われているか検証した。

「切磋琢磨」を調べた伊藤琥珀斗さんは「スポーツや吹奏楽などに関する記事で多く使われていることが分かった」と理解を深め、菊池希さんは「『虎の威を借る狐』は過去から近年まで幅広い期間で使われており『今に生きる言葉』だと思った」と分析した。

国語科担当の門屋なつみ副校長は「社会で起きている事象を根拠にして、言葉の使い方について考えることができた。言葉について思考を深めるために、新聞記事の活用は有効だ」と手応えを語った。

故事成語が含まれている記事を検索する飯豊中の生徒

記事感想 学年越え共有 花巻中

花巻中（横手勝美校長、生徒489人）は朝読書の時間にプラス日報で新聞を読む活動を取り入れた。朝刊から記事を選んで感想を書き、学年をまたいだ「組団」で読み合った。後輩が先輩

から学び、視点を広げる機会となった。

1、2月に2日間実施。生徒は初日に朝刊に目を通し記事をダウンロード。2日目は授業支援アプリ「ロイロノート・スク



ール」を使って記事に感想を書き込み、組団で閲覧できる共有スペースに提出した。

同じ朝刊でも、選ぶ記事や感想の切り口はそれぞれ。3年生の伊東蒼さんは写真に目を引かれてゲーム機の記事を選んだ。組団では路面凍結の記事が多かったといい「自分と違う考え方や視点があつて面白い」と実感を込めた。三上優芽さんは「テレビのニュースは速くて聞き取れないこともあるが、新聞は見直したり読み込んだりできるのがいい」とうなずいた。

取り組みは昨年6月にスタートし、今回で4回目。主導した菅美紀教諭は「国語の学習指導要領は書く題材を社会生活の中から集めるよう求めているが、学校生活だけでは想起しにくく、新聞で日常的に社会的な話題に触れることが大事だと考えた」と狙いを語る。

朝刊を読み、感想をまとめる花巻中の生徒